

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みにになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

非がん性慢性疼痛に対するオピオイド鎮痛薬処方ガイドライン 改訂第3版

日本ペインクリニック学会/非がん性慢性疼痛に対するオピオイド鎮痛薬処方ガイドライン作成ワーキンググループ

株式会社文光堂 2024 年 5 月 21 日発行

推奨の強さ

- 1: する(しない)ことを強く推奨する
- 2: する(しない)ことを弱く推奨する

エビデンスレベル

- A (強) : 効果の推定値に強く確信がある
- B (中) : 効果の推定値に中程度の確信がある
- C (弱) : 効果の推定値に対する確信は限定的である
- D (とても弱い) : 効果の推定値がほとんど確信できない

Minds 掲載 無

■1 ダイオウ

疾患:

オピオイド鎮痛薬誘発性便秘

有効性に関する記載ないしその要約:

『CQS-4:オピオイド鎮痛薬誘発性便秘をどのように管理するのか?』の解説の『表 13 オピオイド鎮痛薬誘発性便秘の治療に用いられる主な薬剤』に記載がある。